

青葉小だより

平成26年10月29日 発行責任 校長 藤井 英貴

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

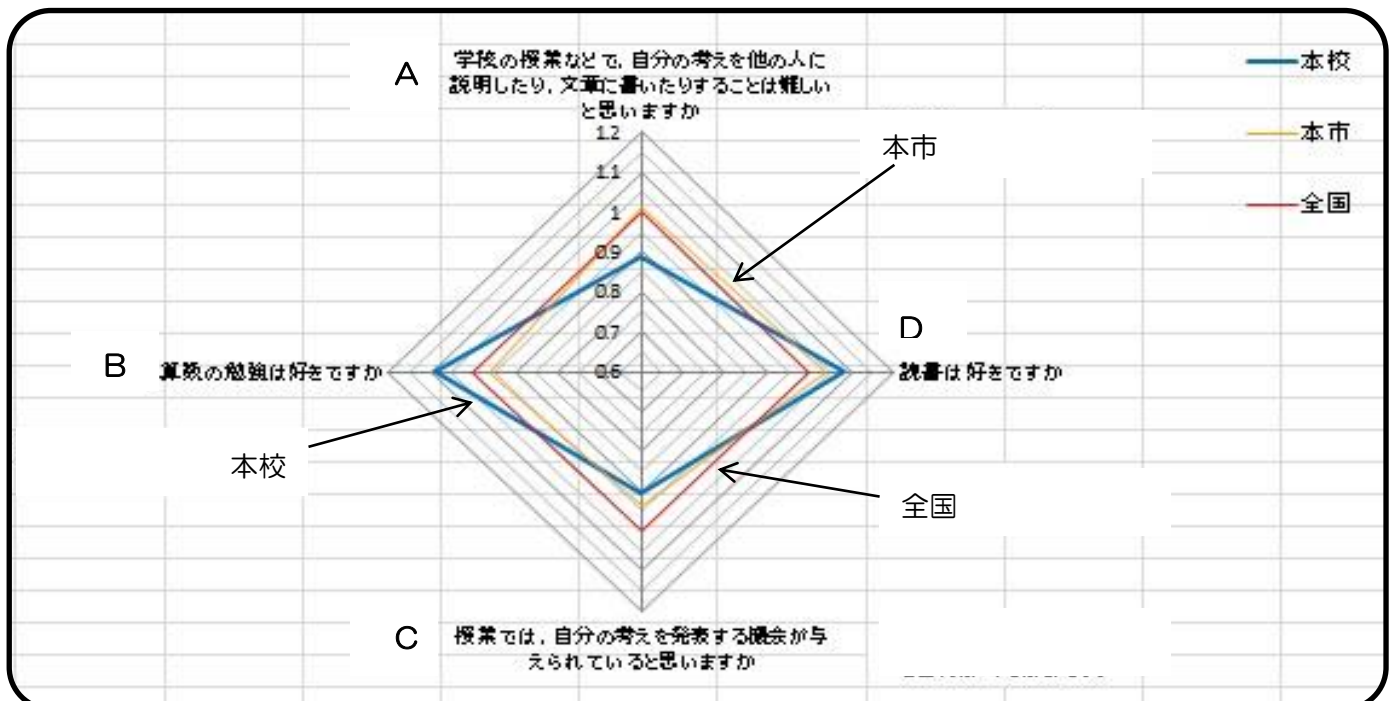
1. 教科に関する調査結果の概要

学校だよりは本校のHPでも公開しています。
「北九州市立青葉小学校」で検索してください。

① 学力調査結果と分析

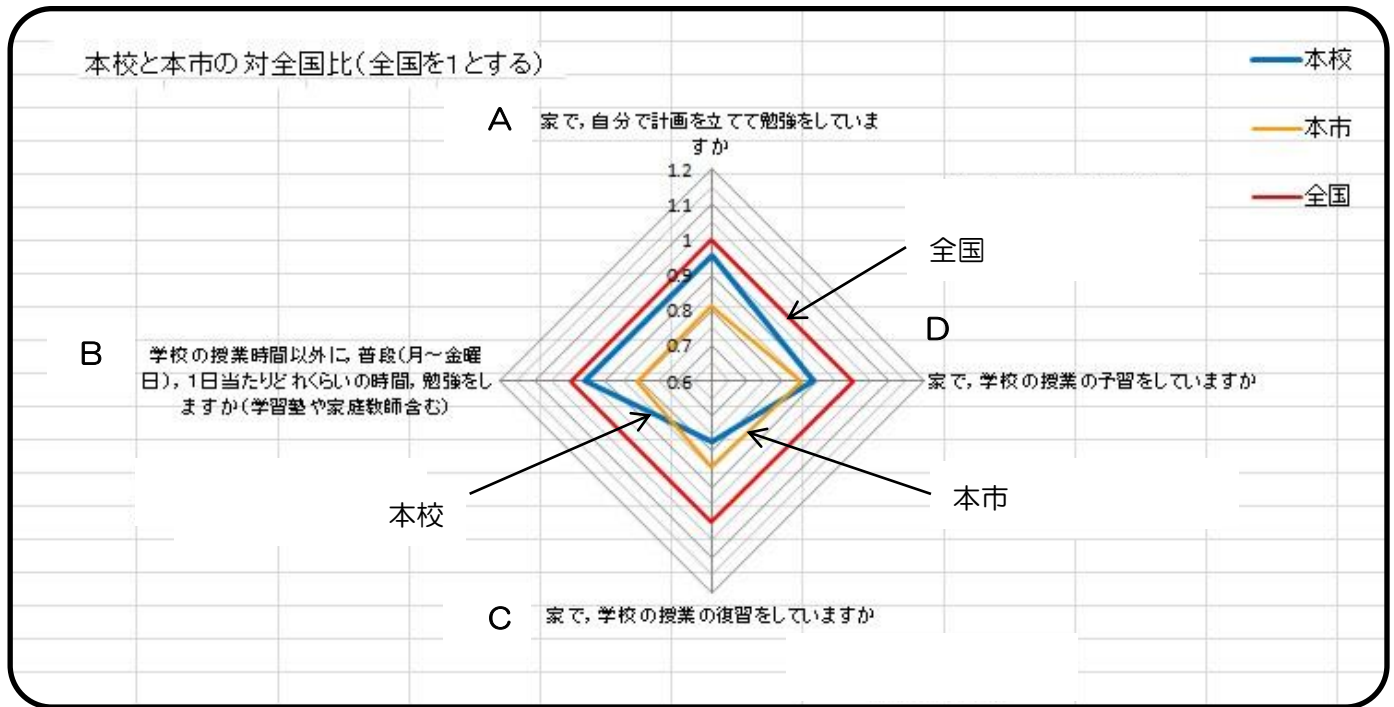
	本校の結果	全体的な傾向や特徴など
国語A	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、言語知識理解は基礎ができていた。 書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇していた。 文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある
算数A	全国平均正答率を上回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率をやや上回っている。領域別にみると「数と計算」「図形」が全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 4領域において全国平均正答率を下回っている。特に、「図形」の領域が、正答率を下回っている。数量や図形について数学的な考え方の不足が考えられ、応用問題が苦手なことが分かった。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の全国比）



- A 授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることを難しいととらえていない児童が全国と比較しても多いことは、授業の終わりにふり返りを書く活動を位置付けている成果が出ていると考えられる。継続して行っていく。
- B ここ数年、研究主題を算数に設定して、子どもたちが相互に学び合いながら学習を深めていく取組を続けている成果が出ていると考えられる。今年度も継続中である。
- C 発表する機会が与えられていると考える児童が、全国平均を下回っていることより、今後は発表する場をもっと多く取り入れるような授業改善を図っていく。
- D 読書が好きだと答えた児童が全国平均を上回っている。これは、毎週木曜日の読み聞かせや、ブックヘルパーによる図書館常時開放の成果が出ている。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要



- A 家で計画を立てて勉強に取り組めていない児童が、全国より多かった。
- B 家庭での学習時間は、全国平均とほぼ同じである。
- C 家庭での復習時間は、全国平均をかなり下回っている。
- D 家庭での予習時間は、全国平均をやや下回っている。復習より高い割合になっているのは、学習塾や家庭教師が予習中心であることが考えられる。
学習したことを定着させるためにも、家庭学習において復習の時間を増やすなど、具体的な取り組みを示し、家庭学習の改善を図るための支援が必要である。

3. 調査結果から考えた課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組 ※「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎朝の帯時間による学力向上の取り組み
 - ・朝自習全校一斉に《青葉タイム》を実施(曜日ごとに内容を決めて取り組む)
- ◎対人スキルアップの視点を取り入れた「学び合い」
 - ・算数の学習を中心に子どもたちが共に学び合うよさを実感し、自尊感情と学習意欲を高める。
- ◎学習終末の「ふり返りタイム」による書くことの習慣化

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習を充実させる取り組み
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブックの」活用
- ◎学年ごとに家庭学習の内容や時間を統一
 - ・学年全体で取り組むことにより、基礎・基本の徹底や学習内容の定着を図れるようにする。
- 家庭学習マイスター賞への応募呼びかけ。